

- 2019年12月の米小売売上高は前月比+0.3%と、市場予想と一致。前年同月比の伸びは+5.8%と、1年4ヵ月ぶり高水準。年末商戦が12月に好調だったとみられるほか、前年の低い伸びが押し上げか。
- 16日に米10年国債利回りは前日から上昇も、小幅なものに。賃金の伸びの鈍化傾向が続くようであれば小売売上高の動向に影響を与える可能性も考えられ、今後の米金利は上昇しにくい展開か。

米小売売上高は前年同月比で1年4ヵ月ぶりの伸び

16日に米商務省が発表した2019年12月の米小売売上高は前月比+0.3%と、市場予想（ブルームバーグ集計。以下、同じ。）と一致しました。

内訳をみると、自動車・同部品がおよそ1年ぶりの落ち込みとなったものの、ガソリンスタンドが9ヵ月ぶりの大幅な伸びとなったことを筆頭に自動車・同部品以外の主要項目すべてが増加しました。

このほか、12月の小売売上高の前年同月比の伸びは+5.8%と、2018年8月以来、1年4ヵ月ぶりの高水準となりました。昨年11月の感謝祭の日付が例年と比較して遅かったことで年末商戦の売上が12月に好調だったとみられるほか、2018年12月の前年同月比の伸びが+1.5%と、約5年ぶりの低水準を記録したことで、2019年12月の伸びを押し上げた可能性も考えられます。

株式市場上昇のなか米金利上昇は小幅なものに

16日の米国市場では、小売売上高の内容を受け、米10年国債利回りは1.80%台と、前日の1.78%台から上昇しましたが、上昇は小幅なものにとどまりました。同日に米国の主要株価指数が軒並み過去最高値を更新するなど株式市場が上昇するなか、米金利は年初来、相対的に低水準での推移が続いています。

10日に発表された2019年12月の米雇用統計で、時間当たり平均賃金の伸び率は前年同月比+2.9%と、市場予想の同+3.1%を下回り、2018年7月以来、1年5ヵ月ぶりの低水準にとどまりました。

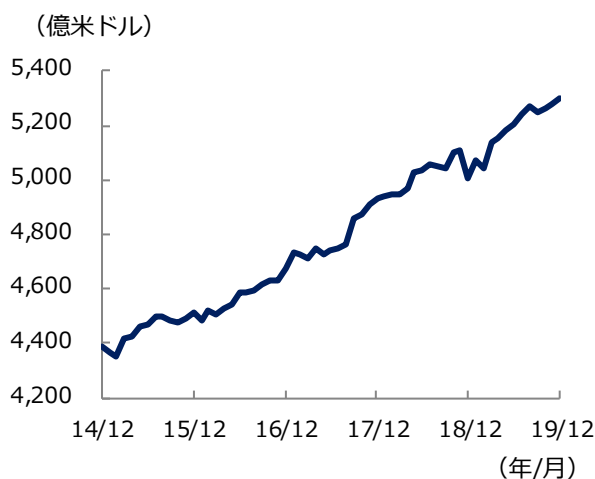
小売売上高は足もとで堅調さが継続しているものの、賃金の伸びの鈍化傾向が続くようであれば個人消費の伸びが緩慢となり、小売売上高の動向に影響を与える可能性も考えられます。

こうしたことなどから、今後の米金利は上昇しにくい展開が見込まれます。

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

米小売売上高の推移



※期間：2014年12月～2019年12月（月次）
年率換算、季節調整済み

米10年国債利回りの推移



※期間：2018年1月16日～2020年1月16日（日次）

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。